

異人館物語



連載第三話 『ヘルン旧居の巻』 2

小泉八雲と神戸

小山牧子え・石阪春生



LAFCADIO HEARN

ラフカディオ・ハーンは、一八〇五年六月、東欧ギリシャのイオニア群島の中にあるレフカディオ島で生まれた。彼のファーストネームは、この島にちなんでラフカ

ディオとつけられたのである。彼の父、チャールズ・ブッシュ・ハーンは軍医で、由緒ある家に生まれたアイルランド人であり、母ローザ・テッショマは、素姓のあきらかでないギリシャ女であった。

ハーンは、彼の父がイオニア群島に軍医として勤務中土地の女ローザと結ばれて生まれたのである。

しかし、ハーンが生まれてすぐ、ハーンの父は家族を残して、単身新しい任地に出むいてしまった。残された母ローザは生活に困り、ハーンをつれてアイルランドの夫の生家に身を寄せることになった。

ローザは、夫が不在のダブリンの古い館で、勝手の違うしきたりに堪えて待った。しかし、遠い任地にあってハーンの父のローザへの愛は冷えてしまっていた。気むずかしい姑や小姑にからまれ、ひたすらに身をぢぢめ待

ち続けていたローザの前につきつけられたのは、一片の離婚書類であった。仕方なく、ローザは夫の生家にハーンを残して、淋しくギリシャに帰つていった。

それ以後、ハーンは一度も母ローザに会つていない。ローザは、ギリシャに帰つて一年後、愛児に会わせてほしいと再びダブリンの館をたずねてきたが、ハーン家では、それさえも許さなかつた。

ローザと離婚したのち、ハーンの父はクリミヤ戦争に出征した帰途、スエズで死亡。ハーンは三才で孤児同然の身の上になった。消息さえもつかぬ母と、さだかに顔もおぼえていない父。成長してから父について話すときハーンの顔に一瞬、憎悪のひらめきがよぎったものである。しかし、母について語るとき、ハーンの顔はかぎりなくやさしい哀しみをたたえた表情になつた。

「私は、肉体的にも精神的にも父に似たところはない。私によいところがあるならば、それは母の賜物である。私はひとかどの富よりも、母の一枚の肖像がほしい」

後年、ハーンは母についてそのように語り、小泉セツ

には、「いかに可哀そうなママさんでした。不幸なママさんでした。氣の毒な女でしたねえ」と、口ぐせのように云つたものであった。

あわれにやつれた背を見せて、ヒースの茂みのむこうに消えていった母。つま先立つて古い館の窓につかまり母を見送った三才のハーンであった。それ以来、母は若くやさしい女としてハーンの胸に宿りつづけている。

四才になつたとき、ハーンは財産家で子供のない未亡人の大叔母、サリー・ブレイネンに引き取られ、愛育されることになった。ハーンは、この大叔母の保護のもとにイギリスの一流校に入学し、のびのびとした少年時代を過すことができた。しかし、彼が十六才になつたときサリー・ブレイネンの破産にあり、ハーンの人生は、大きく変つた。ハーンの苦難と放浪の人生がはじまつたのだ。

カレッジを中退して、フランスから新しい天地をもとめてアメリカへ。その日のパンだけを求めてさまよう生活であつた。行商人、会社書記、電報配達人、ホテル、ボーキー、その他あらゆる仕事を転々とした。人間以下の生活であった。彼の唯一のなぐさめは、公立図書館の堅い椅子に坐り、本をむさぼり読み、ひととき生活の苦しみを忘れることがあった。

二十四才、ハーンはやつと知的職業人として浮かびあがつた。文筆の才能をみとめられ、新聞記者としての仕事をはじめたのである。そして、日本へやってくるまでの十五年、シンシナティからニューヨークの摩天楼の間をさまよいながら、ハーンの心はいつも旅について夢想していた。どこか遠くへ——。アメリカの生活は索漠として、人は孤独でありすぎる。

アメリカでの生活で気持がすさんだハーンは、風物の美しさだけではなく、人情のこまやかな未知の国々にかぎりないあこがれを抱いたのである。

一八九〇年、四十四才でハーンは日本の土を踏んだ。

松江での一年、ハーンは幸福であった。人々はこまやかな愛情にあふれ、風物はこの上なく牧歌的で美しかつた。しかしいま、日本に来て四年、神戸の街でハーンは日本の生活に倦みはじめていることを感じた。

神戸を去り隠岐の島で暮らすことは、ひとときの慰めにはなる。しかし、それがいつまで続くであろうか。そのような隠者の生活は、これから立派に育てあげねばならない一雄の教育のためによくないことはわかっている。そして、妻のセツも、心中では決して隠岐の島に住むことを望んでいないことを、ハーンはよく知っている。

ハーンは、過ぎてきた自分の人生を振り返って考えにふけつた。二、三年を周期に転々と住む場所を変え、新しい生活を求めてさまよつた青春の日々。松江はすばらしい街であつたが、あまり寒さが身にこたえるので南国熊本に移り、熊本では、がさつな九州人の気質が性に合わず神戸に移つた。どの土地でも、しばらく住んでいると不都合なことが目につきはじめる。このまま移つて住めば、早晚、日本から離れてしまうことにもなりかねないだろう。

ハーンは嘆息した。

「ババさん、外へ出て下され。美しい夕焼けのあります」一雄を抱いて戸口に立つていたセツが、ハーンに呼びかけた。

どこの街に住んでも、夕暮れの風景だけは、同じよう美しいものだ。太陽がなだらかな起伏でこの街の西をかこんでいる山の端に沈み、山々の景が紫紺色にこの街全体を閉ざそうとしている。そして、西の空全体が、燃えるような夕焼けであった。

山腹につらなり、黒々と樹木がかさなり合つてゐる生

田の森から飛び立つたカラスの群れが、羽ばたきの音を地上に残しながら、ゴマ粒のような黒点になつて、あかあかと燃える夕焼け空に吸いこまれるように消えてゆく。

ハーンは、しばし言葉もなく立ちつくした。

この上もなく静かに一日が暮れようとしている。

その時、ハーンは、どこからか三味線を爪弾くかすかな音が流れてくるのに気づいた。

「ママさん。あれは何ですか？」

「門づけ……と思うです」

「門づけ？」

「そうです。家の戸口に立つて唄を唄つて、ほんの少し

お金もらつて歩きます」

ハーンは、なおも耳を澄ませ、かすかな音曲に聞き入つた。

「哀しいミュージックですね。私、それ近くで聞くこと願うです」

早速、附近を流していた門づけの女が呼ばれた。女は若い頃に疱瘡を病んだのであろう。醜い顔がいつそう醜

く、百姓女のような着物を着て、頭に青い手ぬぐいをかぶっている。そして盲目のため、七、八才の男の子に手を引かれてハーンの家の前にやつてきた。

やがて、ハーンの家の近くに住む物見高い連中が集まり門づけの親子のまわりに小さな円陣ができ、女はハーンの家の入口の階段に坐つて、三味線で伴奏を弾きはじめた。不格好な唇からは奇跡のように美しく澄んだ声が流れた。もの哀しい旋律は、夕暮れのじしまをぬつて宇宙の底知れぬ深みへと流れゆく。

それは、古い心中話を唄にしたもので、当時の民衆に愛唱されていたものであつた。

門づけの親子のまわりに集まつた人々の目に涙が光つている。そして、ハーンもまた言葉の意味はわからなかつたが、日本人の生活の悲しさと楽しさ、そして苦しみが女の声と共に心にしみてゆくのを感じるのであつた。ハーンは、しみじみと思つた。美しい旋律には、民族の違いや時代を越える力があると——。美しい旋律に感動するのは、人が前世で、やはりその旋律を聞いたこと



があるからではないか。子供は、生まれながらにして母親の愛撫の声を理解する。

人生は一回きりのものではない。人は、本質的な記憶だけはしつかりと無意識の底に沈ませて、何回でも生まれ変わる。そして、美しい旋律が、愛の言葉が、彼らくもの前世のいのちをよみがえらせる。

ハーンの胸に、幼い頃に別れた母、ローザの面影がよぎった。ローザはたしかにハーンの胸の深みで生きている。すべては、いま生きている人びとの胸でよみがえり続けるのだ。

ハーンの胸に、東洋哲学に根ざしたひとつの思想が育ちはじめた。輪廻——。RINNE！それは、なんと美しい響きをもつた言葉であり思想であることが。

セツがさしだすいくばくかの小銭を受け取り、門づけの親子がハーン家の戸口を立ち去り、群衆もまた思い思いで散つていった時、ハーンはセツに云つた。

「ママさん、私、あす隠岐の島にまいることよろしいと思いません。あなた、どう思いませんか？」

セツの顔が一瞬あかるみ、そのまるやかな顔が、さらにほころんだ。

「ババさん。どの街にも美しい心の人います。長く住んで、それを見つけること、ババさんの勧めと思います」

ハーンは、深くうなずいていた。このまま隠岐の島へそしてどこか遠くの土地へ気のむくままに移り住んでいたならば、いつか妻子を捨てて日本を去る結果になりかねない。

ハーンは、島の女ローザを捨てた父を思つた。生涯ハーンは父の非情さを憎みづけていたのではないか。そして、息子である彼もまた、父と同じ仕打ちを日本の女にすることになるかも知れない。苦しくても、いまこの土地に踏みとどまつて堪えるのだ。ハーンは、何度も自分の心に云い聞かせるのだった。

セツは、ハーンの胸にうずいている苦しみを痛いほどに感じた。そしてそんな時、彼女はハーンと結ばれる以

前の暗い絶望の日々を思い出すのだった。

セツにとつて、ハーンは初めての夫ではない。九年前セツは養女にやられていた家で養子婿を迎えていた。セツの養女にやられた家も婿の家も由緒ある家柄の士族であつたが、明治以後は没落して貧しく、その上セツの養家では、養父が寝つきの病人であった。

セツの最初の夫は、いくら働いても借金ばかりかさんでゆく養家での生活に希望を失い、家を飛び出して大阪へ逃げてしまったのであった。

「道頓堀の橋の上で身投げしようとおもうて、だいぶ長いこと立つとたけど、国に待つていらなさる父さん母さんを思うと、それもできなんだ」

後年、夫をつれもどそうと大阪へ出かけて行つた時の思い出を、そんなふうにセツは語つてゐる。

明治二十三年一月行方不明のままの先夫との離婚が成立、その年の暮れ生家である小泉家にもどつたセツは松江中学校の教頭、西田千太郎の媒酌で、ハーンのもとに嫁いだのであった。

先夫にくらべ、ハーンは責任感の強い信頼できる男であるとセツは思つてゐる。

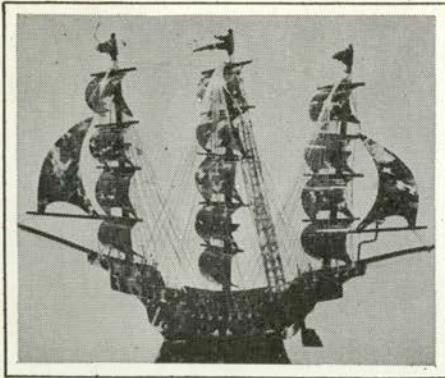
「ヘルンはごく正直者でした。みじんも悪い心のない人でした。女よりもやさしい親切なところがありました。ただ幼少の時から人にいじめられて泣いてまいりましたから、いっくろ者で感情の鋭敏なことはおどろくほどでした」

それが、セツから見たハーンの人がらである。

暗いトンネルの中をゆくような人生をぐぐり抜けてきたハーンとセツであった。そしてセツはいま、彼女の持つている能力のすべてを注ぎこんで、ハーンとの暮らしをしあわせなものに築いてゆきたいと思うのであつた。

事実、セツとの幸福な家庭生活がなかつたならば、ハーンは日本に永住することにならなかつたであろう。

(つづく)



センスあふれる
べっ甲専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL ③6195



世界の品々は
サノへでお選
びください。



元町2丁目
③4707~8



創作ハンドバッグ
工芸品 ORIGINAL

神戸 ■ 元町

ACCESSORIES

イクシマヤ

—

TEL. (33) 2415・2416



高級紳士服専門店

神戸テーラー

さんちかメンズタウン TEL ⑨0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL ③2817・3173

高級紳士服

山名洋服店

神戸三宮生田筋⑬5797

男らしさがにじむ マンヤマの紳士洋品

高級洋品
マンヤマ
神戸元町1丁目
TEL (39) 4880

オードコーカス-C
オードコーカス
KOBEの街とともに40年—
ユニークな香りの
高級ヘヤートニックです

三星堂
発売元 / 神戸
TEL 大代表23-4341

灘の生一本

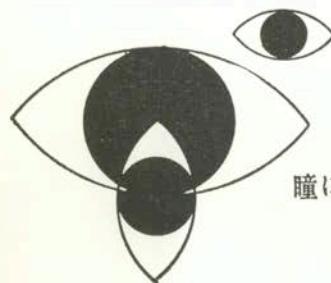
清酒
大黒正宗

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



末 積 製 額

三宮・大丸北
トア・ロード
③1309・6234



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一（三宮駅前）
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・8361

創業明治二十一年

履物の山下
古い老舗に新しいセンス

神戸 三宮センター街

TEL ⑨ 0256

確実正札 完全冷暖房
静かに品選びの出来る店

高級きものとおひ
しみぬき・活^{アマ}洗^{アマ}専門店

平野
つるや東店
兵庫区神田町125
(家庭裁判所前東1丁)
TEL ⑨ 6932



のれんが育てた
神戸の味

瓦せんべい
クリームパピヨン

龜の井龜井堂本家

神戸三宮トーフロード
電話 本店 33-0001
電話 南店 33-1616

おすし
てんぷら

榮
浦

営業時間
A.M. 11:30~P.M. 9

本店 三宮町二・朝日会館前
TEL ⑬ 5 7 7 2 (毎週月曜日休み)
支店 さんちか味ののれん街
TEL ⑨ 5 2 3

やつぱりうまい
むさしのとんかつ

アベマサシ

でんわ 三宮店
三二〇八一

長崎堂元町店

カステーラ
カステーラ元町店

ご贈答に風味豊かなカステーラ
長崎堂本店

本店=大橋町5大五ビル (61) 0553-4
新開地店=松竹座前 (56) 2423
元町店=元町 6 (34) 4130
さんちかスイーツクウン (36) 3625

YOUNG BELL

CLUB

Young Bell

松田 真理子
生田・中山手2丁目89・1階 TEL 33-3052

洋酒の店 キャンティ

Chianti*

榎 晴 夫 T E L (39) 3 0 6 0
213 KITANAGASA-DORI IKUTA-KU KOBE

SNACK BAR

マゼラン

生田区加納町4丁目 TEL 39-2366

the

Cosmopolitan

Valentine F. Morozoff

コスモポリタン
チョコレート・キャンディー

神戸本社 神戸市生田区三宮町1丁目170 電話 33-5304
神戸直売店 神戸市生田区三宮町1丁目 電話 33-1217
大阪堺筋店 大阪市東区淡路町2丁目 電話 231-6979
大阪心斎橋店 大阪市南区安堂寺橋通4丁目 電話 251-4182
東京銀座店 東京都中央区銀座8丁目 電話 571-2303
東京新宿店 東京都新宿区角筈1丁目
新宿ステーションビル地下2階 電話 352-2436
千葉駅ビル店 千葉市新町千葉駅ビル名店街 電話 7-2534



ビアードクトル
探訪記<8>

小松 益喜

<画家・新制作協会>

父が酒屋をやっていて、晩年まで造り酒屋をやった人だったので、アルコールには小さい頃からなじんでいます。

父親とまる二日間かかって一斗樽を開けた昔がなつかしく、酒を飲むのも親孝行の一つだと大いに楽しんでいる。

ビールは何といっても冬ストーブをたいたそばで飲むのが一番うまい。外でもよく飲むがただ、好きなだけに、63才という年令も考え、あまり昔のように深酒はしご酒はひかえているし、楽しく飲むには、それだけの準備が必要である。まず

- 少量であっても毎日飲まないこと。
- 大いに油っこいものを食べること。
- 飲んだあとは必ず水を飲むこと。

この水を飲むということは、酒を飲む人の健康法に大いに進めたい。

フランスに行っていた時、欧洲ビールもずいぶん飲んだが、やはりビールは日本のビールである。

兵庫の女

武田繁太郎
え・松岡寛一



第九章

いつまでたっても商売人に徹しきれない利市にひきかえ、まつをは、店は良人や番頭たちにまかせ、三日にあけず京都の問屋筋へでかけたり、地元の銀行と融資の交渉をしたり、いっときも席のあたたまるひまがないほど多忙な明け暮れをつづけていた。

まつをはすでに三十の働きざかりを迎えていた。

この十数年の歳月は、彼女に不敵なまでのたくましい商魂をうえつけていた。まつをの商法は、どこまでも強氣であった。買いの一手でおしまくっていくのである。

平梅富次が舌をまくほど大胆な手をうった。時代の波が

いっそう彼女に味方していた。

久留米がすりが買いどきだと見抜くと、まつをは、京

★あらすじ

まつをは15才で広島の生家をとびだし、神戸に出て鐘紡の女工となり、バンドル工の安福利市と職場結婚した。若い二人は社宅に住んで共稼ぎをはじめる。まつをはそのかたわら、寝る間も惜しんで内職に精を出し二百円を貯め、それを元手に社宅をまわる呉服の行商を始めた。

反対する利市を強引にときふせて、ひらけゆく兵庫の御崎本町通りに小さな呉服の店「かたち屋」をもつて数年。年号も新しく大正の世となり、かたち屋も今では押しも押されぬ大店となっていた。

しかし、店の実権をがつちりと握り、押金主義とも見えるまつをのやり方に、利市はどうしてもしなじむことができず、彼の心の奥には人しれぬわだかまりがあった。

都の問屋を素通りして、じかに九州の織元の問屋までかけていった。そして、千反、二千反と、小売り業者に

むろん、強気の買いつぼうでは、相場が下落するときには、当然それだけの欠損をかぶらねばならない。だ

がまつをはひるまなかつた。

「いまは、売りよりも買いや」

かつて十数年まえ、平梅富次は、商売をはじめようといふまつをに、こう教えてくれた。「呉服の商売は十年

が勝負や。ほんまの勝負は十年たんとわからん。十年のうち、四年損して、六年で儲けたらええ。その二年の差が、ほんまの儲けや」

四年損して、六年儲ける。この信条を、まつをは、彼女流に墨守していたのである。

相場は下落し放しといふことはない。やはり、十年が勝負であった。十年を区切れば、自分の買いが絶対に勝ちぬくということを、彼女は、その十年の経験ではつきりと見抜いていた。

ヨーロッパでは新しい戦火がまきおこつていた。その大戦ブームの余波をうけ、好景気の波が日本全国にひろがっていくにつれて、まつをの強気のあきないはますます図に乗つていった。

もちろん、呉服の商売だけではない。あらゆる商売が気違ひじみた戦争景気の波にうかされていった。港町の神戸では、勝田とか内田とかといった船成金が一挙に巨万の富をつかみ、山の手や須磨に内田御殿とか勝田御殿とかいう一町四方もあろう豪壮な邸宅をかまえ町全体が異様な活気にわきたつっていた。

成金どもは、暗かりで下駄をさがすのに、百円札に火をつけ、その燃えるあかりでさがしたとか、その下駄の裏の金具を純金で作らせたとか、馬鹿氣な伝説が生れたのもこのころである。

一般大衆のあいだでも、獅子舞いのようにやたらに金歯をひからせたり、金びかの懐中時計をぶらさげたり、

純金の印台付きの指輪をはめたり、といった風潮が生れた。

かたち屋呉服店の飾り窓にも、五十円也の正札をつけた丸帯がかざられてあつた。だが、いかに一般的の金使いが荒っぽくなつたとはいえ、御崎あたりの下町では、さすがに一枚五十円もする丸帯に手をだす酔狂な客はいなさそうにみえた。店の飾りにしても、番頭たちはいささか持てあまし氣味であった。

「やつぱり、場所柄を考がえんとあきまへんわ。ひやかし客もつきまへんわ」

番頭の一人が音をあげると、まつをは、そんな番頭の弱氣を跳ねかえすよう言つた。

「阿呆やな、あんたらは。だいたい、五十円なんて中途半端な値をつけるさかい、いつまでたつても買手がつかんのや」

「中途半端とおっしゃつたかて、こつちにしたら、あれでも思ひきつた値をつけたつもりでつせ」

「いやいや。まだあかん」

まつをは即座に首をふり、自信ありげに言つた。

「よろしいか。あの五十円の正札をはずして、二百円の正札にとりかえておきなはれ。そしたら、三日のうちにかならず売れる」

番頭は啞然とした面持ちできいていたが、女主人の予言どおり、三日目の夜、まつをが京都の問屋から帰つてくると、番頭はいつそう啞然とした面持ちで、丸帯が二百円の正札のまま売れたと、報告した。

おなじ丸帯でも、五十円なら売れず、二百円に値上げしたら、たちまち客足がついた、とそんなかたち屋呉服店の好景気も、やがて世界大戦がおわり、つづいて大戦ブームの反動のようすに神戸市内に米騒動がおこり、そして、一粒種の息子の良治が生れる直前までつづいていた。

利市は、結婚してすでに二十年ちかく、妻に懷妊のきざしのみえぬところから、夫婦のあいだにはもう子種はない。

三十をすぎての初産で、生れるまで良人の利市も気がはなかつたが、それでも、四十の声をきいて、思ひがけなく恵まれた子宝に、彼は狂喜した。

まつをは産褥に二十一日ふしただけで、床上げの祝いをすますと、その日からもう店にでていた。そして、鐘紡の社宅のかつての同僚のつてで、若い元気のいい乳母を雇つてくると、良治はこの乳母にまかせきりにして、商売に熱中していった。

嬰児に乳を与えたため、まつをの胸はいつも脹らみ放しであつた。京都の問屋へでかけていくときなど、胸にたっぷりガーゼをあてていくのだが、それも、途中の車内でガーゼはびしょびしょに濡れてしまう。まつをはいそいで便所にかけこむと、着物の襟をはだけ、手で乳房をもんでは、乳をふくませたガーゼを窓外に投げ捨てていった。

だが、利市の良治にたいする溺愛ぶりは、よそ目には異常なほどであつた。店の帳場にすわっていても、奥の座敷から良治の泣き声がきこえてくると、利市は一瞬もおちついではいられぬ風情であった。

「どないしたんやろ？　どこぞ具合いでもわるいのとちがうか」

と、そんなことをつぶやきながら、そわそわと立ちあがり、奥の間から良治をかかえてくると、帳場でけんめいにあやしつづけた。生れたばかりの嬰児でも、実の母と乳母の違いは、本能的に嗅ぎわかるものなのか。良治は、まつをがわざわざ雇つた乳母にはどうしてもなしもうとはしない。乳房をふくませても火がついたように泣くばかりだった。ところが、利市が抱くと、ふしきにひとり泣きやみ、そのまま、すやすやと気持ちよさそうに寝いつてしまふのである。

しかし、まつをは、そうして利市が店の間にまで良治を連れだしてくるのを、いつも露骨にいやがつた。

「また子供をなぶつとつてや。いつたい帳場をどこやと思ってなはるのや？」　だらしのない。さあ。あたしにか



ないものと、なかばあきらめていた。

まつをは娘のころから肉つきのいいからだに似あわず冷え性であった。それで、良治が生れる一年まえ、医者にすすめられ、思いきつて半月ほど城崎へ湯治にでかけていった。

彼女は、結婚してはじめて、いや、生れてはじめて、のんびり湯につかってきた。この城崎行きが効き目があつたのか、ほどなく良治を身ごもつたのである。

して頂だい」

そう言つて、利市の腕のなかから良治をひったくるようにして、さつさと奥の間へ連れこんでしまう。

宮詣り。初節句。初誕生と、かたぢ屋の跡取り息子にふさわしい祝儀が、そのつど派手につづいていたが、乳母の乳も満足にのまなかつたせいか、良治はひよわな子に育つた。そして、三つ四つのころになると、父親の利市と生き写しのようになつて、性質もおとなしく、一見して華奢な体質まで、良治は父の血をそのまま受け継いでいるかのようであった。

それがまた、いつそう利市の愛情をかきたてたようであつたが、良治のほうでも、この父親にはよくなつき、片時も利市をはなそとはしなかつた。

「オトウー、オトウー」

と、まだ十分舌のまわりきらぬころから、良治は、ちよこちよこと店の間にかけだしてきては、母親に叱られながらも、懲りもせずに父親にまつわりついた。利市は、まつをが店をあけていなくなると、そのわずかな留守のまにでも、良治を肩車にのせて、ちかくの和田宮神社へでかけていった。



ジャズの舞演

10月31日 PM6・30～PM9・00 会員券 出演／篠田憲一とディキシーキングス 会員券 主催／民音 於神戸国際会館

▷兵庫県文化賞フェスティバル

11月3日 PM1・00～PM6・00 無料 主催／兵庫県 於神戸国際会館

▷日本青年会議所全国大会前夜祭

11月4日 出演／ダークダックスほか 主催／神戸青年会議所 於神戸国際会館

▷兵庫県大学合同演劇祭

11月12日 PM2・00～PM9・00 ¥300 出演／関学・甲南大・松蔭女子短大 於神戸国際会館

▷市民民謡祭

10月18日 AM9・00～PM9・00 各区の婦人会ほかが出演 主催／市民祭協会 於市立体育馆

▷刀剣と南蛮美術展

11月1日から25日まで 大人¥50 小人¥20 於市立南蛮美術館（毎週月曜日休館）

この神社の境内には、幾百羽もの鳩がたむろしている。良治がどこよりもよろこぶ遊び場であった。利市はひろい境内にはいると、肩から良治をおろし、

「さあ。良。おとうさんとふたりで遊ぼうなあ」と、鳩の群れを追つて無心にとびまわつていく愛児の姿を、いつも目をほそめてみほれるのである。

ここだけが、まつをの目のまつたくとどかぬ、ふたりだけの別天地であるといえた。

だが、そんなひそかなるのしみも、ながくはつづかなかつた。ものの小一時間もたつと、まつをの帰宅が気にかかりだすのである。

「良。ぼちぼちかえろうか」

利市が、遊びたわむれていた良治の手をとると、良治はその手をすりぬけるようにして、

「オトウ。もつといいる、もつといいる」

と承知しない。そこで、やむなく利市は良治のからだをむりやり抱きあげ、そこで、やむなく利市は良治のからだをむりやり抱きあげ、そこで、やむなく利市は良治のからだをむりやり抱きあげ、「そんなんわがまま言うたらあかん。な、またあしたや早よう帰らんと、おかあちゃんに叱られるやないか」そう言つて、ぱたぱたあはれる良治を肩車にして、小走りに帰っていくのである。

△次号につづく△

木柏嘉嘉金大小小岡岡牛上榎石乾砂有浅荒朝青安
曾比下井納納井淵野根崎部崎尾田並野 野岡田木奈木部

健毅正元ツ一真 伊真吉将正成豊 信長 重正
ト 都 繁一六治彦ム夫造忠子一朗雄一明彦仁道平晃昇隆雄夫

玉田田田田淹淹竹砂末塩新白雀坂阪古後上小小
井中中村宮川川中田正路谷川部口本林藤林林泉林磯

健寛孝虎勝清 重左義秀 昌干 喜末英秀徳芳良
一之衛之 操郎次介彦二一郁民門孝雄渥助雄勝樂二一雄一夫平

神行山若百宮宮松福深原畠原野中直永外竹津
戸
青吉口杉崎地崎井富水 口沢西木井島馬高
年
会哉泰 辰婁辰高芳惣泰專忠幸 太達健準和
議 一次三一之
所女弘慧雄二雄男美吉良郎郎勝郎七吉助一

お世話いただいた方がた
発行はいろいろと

★これは月刊神戸「子の大事」の大本命ファン誌である。元女子高生が書いた「星の王子さま」の感想文だ。月刊神戸は、この号が大本命ファン誌であることをアピールする意味で、題名を「星の王子さま」にしたのである。

みかけたのが、五月号でした。それで購入。それから五冊目。今月十号までまだまだ月も浅いファンですが、これから仲間に入れてください。

今月号の「神戸の男性」興味深く読むとともに共鳴しました。神戸が世界中で一番好きなのは根っからの神戸っ子です。生まれて二十歳未満で小学生の頃から大学まで育つ私は、生離れたくないと思っておりまます。

さて、本誌ですが雑誌の性質上、広告が多いのですがも得ませんとお聞かえます。ところがユニークな企画も得ませんとお聞かえます。たとえば、「各区だより」とか「神戸の高校めぐり」それから「クイズや」「オシナレ相談」などまだまだ

かからそらくそこへおれる私は先日、神戸からどうなぞいわれるかにがかりました。その友人から「神戸の子」を送られました。私はたまらなくうれしくて、さばり読みました。私も知っている洋服店やレストランの名を見るとき歩きなれた町角を思い出し、「つくづく」と思ひます。『神戸はいいなあ』と思ひます。そのあくる日同僚に「神戸はいいなあ」と言つた。これが毎月『神戸の子』を買って、神戸をよくともがりさせてください。『神戸の子』がますます成長することを東京の空の下でいいのかもしれません。

愛讀者

まだできることは多くあると思いま
す。とにかく私たち『神戸っ子』が
手をつなぎ、神戸の街を一層発展さ
せて行き、本誌とともに成長していく
ことをいのちです。

後記 編集



★ 月刊神戸っ子を読みにない
若い皆様へ、また神戸を離れていた
お友達に、神戸の香りをおとすと
なりたい方は、編集室までお申込
込みにいなればさっそくお送りいた
ます。

六五〇円
6ヶ月分

1年分 一三〇〇円(送料共)

A cartoon illustration of a large, white, rounded character with a black bow tie and three diagonal lines for a smile. It is surrounded by several smaller, white, head-like characters with faces and small bodies, all of which are smiling.

袖戸「予」あんなし

★ 神戸甲子園球場内にあります。お申込みください。
★ 神戸戸店会の事務局も月刊神戸一書房であります。

★秋深く。神戸港には春にも劣らぬ世界の観光巨船キンベル・スタンデンバム・オリナード号が続々と入港。京都では青年議会の世界大会が、ここ神戸では全国大会が十一月に開かれ、常陸宮ご夫妻をお迎えします。全國から集まるJ.C.メンバーの人々、XSセキボリタン神戸の素顔を、世界的貿易港都とぞくと観て頂きたいものです。(小泉康夫)

★今月は秋の神戸特集を、グラビヤSHOPPING IN KOBE-AUTUMN A DAY IN KOBE-で編集。メンの「変わらぬ神戸」と、また、「神戸の魅力」が北堀奈良氏を迎えての懇談会と四つを主題に編集しました。神戸の魅力をさぐればさぐるほど、"KOBE"の限りない良さにじみでてきます。(こんなエトロあらへん)

★長らくカット・レイアウトを担当していただいた中津悦さんだが、ご主人の元永定正氏と具体芸術協会会員として仲良くな一緒にニューヨークへ旅立たれました。

「ビヨンソン」のユニットなカットは、悦子さんがニューヨークから送つて下さる予定です。△小泉美喜子▽

★「食いちがはつてるので神戸戸は死ぬまで離ねんよ」とおもわしく語る比奈先生の言葉だ。時に味わう深いもの。食いもののワラミ何とやら。△神戸っ子は幸せのです△中田靖子▽

★暴力團・麻薬ばかりが沖縄のシンボルになつては困ります。でも、山よし街よし酒よし食べものよし女よし。いいところもタントンといたいのです。△川端康成▽

★月日のたつは早いもの、編集部の仲間入りをしてから四号目の編集企画を終えました。号数があつとうござります。虫の声が聞こえてくる季節です。虫の声を聞くたびに考えるのはまだいたずらに時を見逃すことのない様に心がけたいということ。

PHOTO POEM

魚と奇蹟

詩 / 福井久子
カメラ / 緒方しげを

私は顔のない女

水溜りに顔を落した女

白い微光に導かれ

廃屋を遊泳する

一匹の魚



女に顔を与える時を



コスモボリタン神戸のなかで文化・社会奉仕に一役買おうと生まれた女性だけのグループ。神戸・インターナショナル・レディース・クラブ。それがそである。

外国人を含めた三十名の会員は毎月一回例会を持ち、社会奉仕はもとより国際的な女性になるためとに、積極的な活動を続けている。施設のこどもたちの慰問や街頭募金など





銘店抄その29
陳舜臣（作家）
スギヤ
トア・ロード

市電三宮神社前東行きの停留所のあたりにいると、歩道がわにベンチがあるのに気づくだろう。それも薬や歯みがきのけばけばしい広告つきの野暮つたいやつではない。金属製の透かしの背に、ひかえめに「スギヤ」と字がはいつてやられた花籠に四季の花をいけている。そばにおなじようにしてある。そもそも通行人にたいするスギヤのサービスなのだ。店へはいるまえに、こうした心づかいに、まずほのぼのしたもののかんじる。

婦人洋品の店に一ぱん大切なのは、そんなムードではないだろうか。こじんまりしているが、スギヤは女性のショッピングの悦びを、まるやかにうけいれる店である。

現代女性が身につける品をえらぶとき、最も気にするのは、「個性的」という点であろう。ふるい店歴をもつスギヤは、そこはよく心得て、仕入れの品も粒選りである。神戸の絵地図入りハンカチなどのように、この店特製の品も多くなくない。

買い物ぎらいの男性でも、妹を連れてショッピングに行きたくなるような店である。

写真は左から杉浦元子さんと筆者



銘店抄 その30
陳舜臣（作家）
フナキヤ
元町通3

元町三丁目のフナキヤは、紳士洋品の店としては草分け的存在である。改装した店のドアはガラスに格子がはいついて、みるからに本格派ムードだし、店内の照明は一切蛍光灯を使っていない。そして典雅なシャンデリアがさがつていて、店を縁どるようには植木鉢からみどりの蔓が唐草模様をえがいている。

現代のような生産過剰の時代にあつては、商店経営のポイントは、洪水のような商品群のなかから、自分の店の客層にマッチするものを選び出すことにあるだろう。

その点、フナキヤは熱心な社長の鋭いセンスのフルタ一にかけられた品が店頭にならんでいる。社長の年が若いだけに、年配の人の嗜好がつかみにくいのではないかと思つたが、それはよけいな心配であつた。

「ゴルフですか」と若社長は言う。ゴルフを通じて、年配の人たちとつき合い、年配の人の心理や好みを抜け目なく観察して、経営の参考にしているそうだ。ただのしにせではない。新本格派とでもいふべきであろう

（写真左から安達昭三社長と筆者）

Hino

高性能の日野

日野
コンテッサ 1300
兵庫日野自動車株式会社

大代表 TEL ⑤ 2281



神戸百店会

Kobe High Class Shop Group

* 宝飾品 Jewel·Pearls

- ① 宝飾 御木本真珠店 国際会館1階 Mikimoto Pearls International House
- ② 宝飾 田崎真珠店 新聞会館6階 Kobe Shinbun
- ③ 宝飾 北村真珠店 元町通二丁目2階 Kitamura Pearls
- ④ 宝飾 タジマジ マヤ店 元町通二丁目7 2-motomachi Tajima Jewel
- ⑤ 時計と宝石 美田時計店 元町通三丁目8 3-motomachi Mita Watch Shop
- ⑥ 宝飾 神戸宝石店 トアロード7 7 Kobe Jewel
- ⑦ 真珠・毛皮 船来婦人服飾 ピラタカタ Pearl Fur & Ladies'

* 紳士洋服・洋品 Tailor & Men's Shop

- ⑦ 紳士服 柴田音吉洋服店 元町通四丁目9 3 Tailor Sibata
- ⑧ ネクタイ 元町バザー一店 元町通一丁目1 4 motomachi Motomachi Bazaar
- ⑨ 紳士服 三恵洋服店 元町通四丁目9 0 Tailor Mituei
- ⑩ 男子洋品 神戸戸屋 フナキヤ Kobe-ya Men's Shop Funakiya
- ⑪ 男子洋品 十字屋洋服店 元町通三丁目7 3 motomachi Tailor Jijiya
- ⑫ 洋品雑貨 サノヘ へ 大元町通二丁目7 0 2 motomachi Sanhoe
- ⑬ ワイシャツ 神戸シャツ 大元町通一丁目6 8 In front of Daimaru Kobe Shirt
- ⑭ 紳士服 洋服の森渡辺 大元町通二丁目6 5 0 Center-Gai Watanabe
- ⑮ 衣生活品 ニッケショールーム 大元町通三丁目9 0 1 Nikke Showroom
- ⑯ 紳士服 神戸テーラー 阪急西口 8 1 7 Kobe Tailor
- ⑰ 若人の服飾 マック Mac Men's Shop
- ⑱ 紳士シャツ 大和屋のシャツ 大元町通一丁目6 9 5 Center-Gai Yamatoya Shirt
- ⑲ 婦人洋装・洋品 Ladie's Shop マキシン Maxim
- ⑳ 服飾雑貨 エスター・ニュートン Esther Newton
- ㉑ 洋品 スギヤ Sugiya
- ㉒ ハンドバック シラサ Shirasa

* 洋傘・洋装 マスベニ

- ㉓ 洋傘 Okada オカダ
- ㉔ 洋装 Masuya マスヤ
- ㉕ 婦人服饰 Beniya ベニヤ
- ㉖ 輸入服地 Maruzen マルゼン
- ㉗ 婦人・紳士服 Serizawa セリザワ
- ㉘ 毛皮 Bennie Furrier(Furs) ベニ一毛皮店

* 装身具・服飾品 Accessory·Dress

- ㉙ べっ甲 太田べっ甲 Ota Co. (Tortoise-shell ware)
- ㉚ ハンドバッグ イクシマヤ Ikushimaya
- ㉛ アクセサリー 芸芸 Geimu
- ㉜ 婦人・紳士靴 クロス靴 Cross Shoes
- ㉝ 婦人・紳士靴 吉岡靴 Yoshioka Shoes

* 和装 Kimono, Geta

- ㉞ 着物 ちんがら屋 Chingaraya
- ㉟ 着物 みよしや Miyoshiya
- ㉞ 衣装 中川衣裳店 Nakagawa
- ㉞ 衣装 つるや衣裳店 Turuya

* 美容 Beauty Shop

- ㉞ 美容 美容室あきら Akira Beauty Shop
- ㉟ 美容 マキシン美容室 Maxine Beauty Shop
- ㉞ コンタクトレンズ 国際コンタクトレンズ International Contactlens Laboratory

* ボーリング Bowling

- ㉞ ボーリング 神戸スタークーン Kobe Starlane

* 美術・工芸品 Art

- ㉞ 美術 元町画廊・若木屋 Motomachi Gallery
- ㉟ 画材・額縁 末積製額 Suezumi
- ㉞ 工芸 磯川工芸店 Isokawa
- ㉟ 美術陶磁器 淡洲堂 Tanshudo
- ㉞ 新古美術 播磨 Harishin

* 家具 家庭・文化用品 Furniture·Family

- ㉞ 家具 永田良介商店 Nagata Ryosuke Shop
- ㉟ 運動用品 ヤノスポート Yano. Sports
- ㉞ 玩具 力メヤ Kameya Toy Store
- ㉟ メガネ 神戸眼鏡院 The Kobe Optical Co., Ltd.
- ㉞ カメラ コヤマカメラ Koyama Camera Shop
- ㉟ 儀式用品 富田屋 Tomitaya
- ㉞ カバン 大上鞄店 Oue Trunk Co.
- ㉟ カバン 高橋鞄本店 Takahashi
- ㉞ 電器製品 元町電機 Motomachi Electric Co., Ltd.
- ㉟ 薬品 三星堂薬局 Sanseido Pharmacy
- ㉞ メガネ 服部メガネ店 Hattori Optical Shop
- ㉞ 菓子・喫茶 風月堂 Fugetsudo
- ㉟ 瓦煎餅 亀井堂本家 Kameido Honke
- ㉞ 菓子 雅治郎飴本舗 Ganjiroame-Honpo
- ㉞ 洋菓子ドン Donq
- ㉞ チョコレート モロゾフ Morozoff
- ㉞ ドイツ菓子 ユーハイム Juchheim's
- ㉟ 洋菓子 ヒロタ口タ Hidemitsu Confectionery
- ㉞ 洋菓子 ユーハイムコンフェクト Yuhamiu Confect
- ㉞ 和菓子 二つ茶屋 Futatsuchaya
- ㉞ 菓子 本高砂屋 Hon-Takasagoya
- ㉟ カステーラ 長崎堂本店 Nagasakiido
- ㉞ 瓦煎餅 亀井堂総本店 Kameido Sohonten
- ㉞ 瓦煎餅 河南 Kanando
- ㉞ チョコレート コスマボリタン Cosmopolitan
- ㉞ 瓦煎餅 菊水総本店 Kikusui Sohonten
- ㉞ 喫茶 UCエシマコーヒーショップ
- ㉞ 洋菓子 アルモンド Almond
- ㉞ チョコレート ゴンチャロフ Goncharoff

* 和洋料理 Eating House

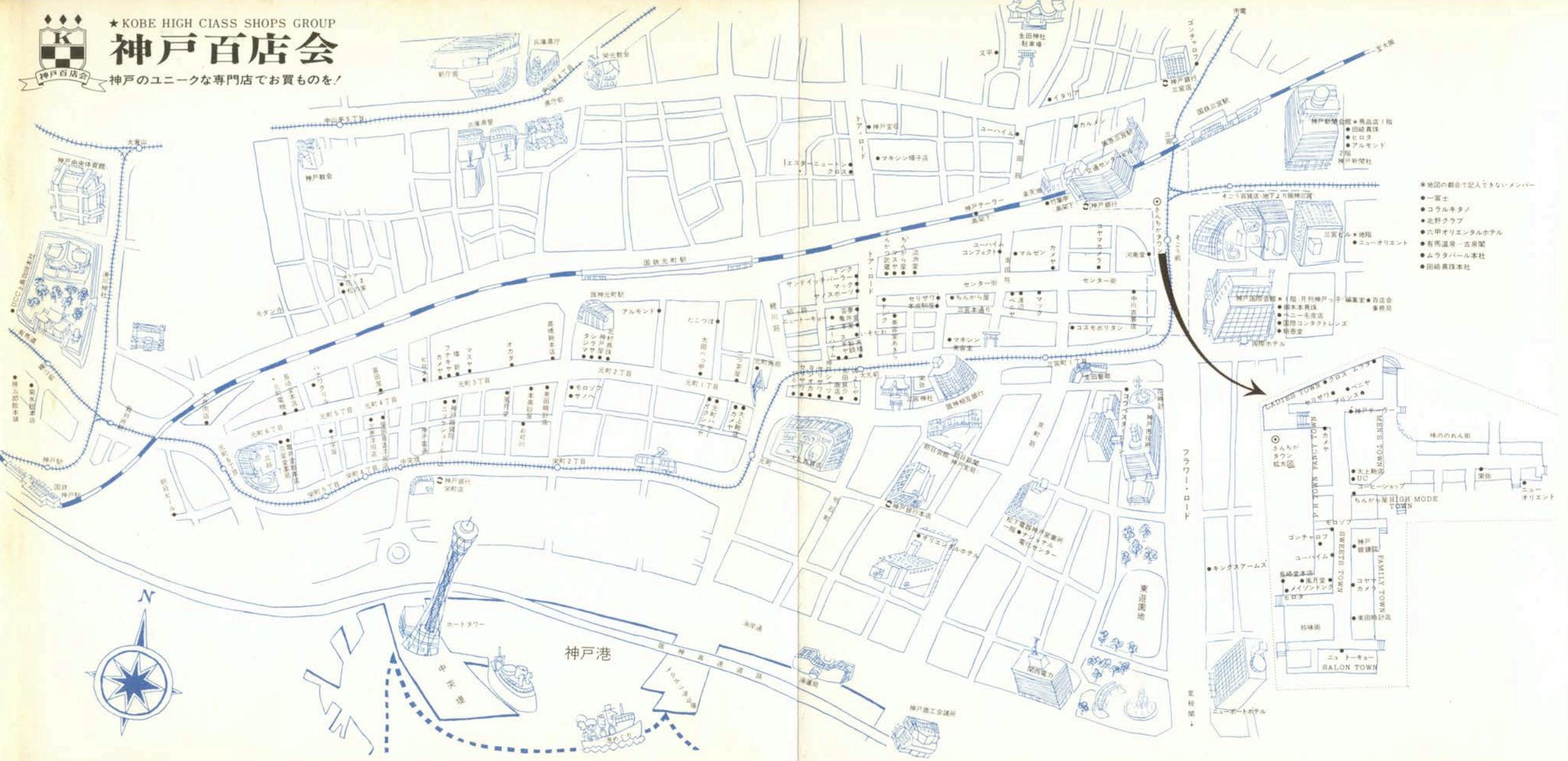
- ㉞ ステーキ キングス・アームズ King's Arms Tavern
- ㉟ 懋・日本料理 竹葉 Chikuyotei
- ㉞ 天婦羅 お可 Okagawa
- ㉟ かふく料理 お富 Ichifushi
- ㉞ 寿司 本成駒 Hon-Narikomaya
- ㉟ とんかつ 武 Musasi
- ㉞ スペイン料理 カルメ Carmen
- ㉟ 欧風料理 ハナワグリ Hanawa Grill
- ㉞ ピヤ・ホール ニュー・トキヨー New Tokyo
- ㉟ イタリア料理 イタリア Italia Ristorante
- ㉞ 軽料理 蜂の塔 Takonotsubo
- ㉟ レストラン コラルキタノ Coral Kitano
- ㉞ 天ぷら・寿司 栄 Higashi Sakaeya
- ㉟ 寿司 又 Matahei
- ㉞ 神戸肉 大井肉 Ooi Beef Shop
- ㉟ ピヤ レストラン ニューオリエンント
- ㉞ クラブ・料亭 松乃家 Matsu no ya
- ㉟ ナイトクラブ 北野クラブ The Kitano Club
- ㉞ クラブ くらぶ花くま Club Hanakuma
- ㉞ ホテル Hotel
- ㉞ ホテル 神戸オリエンタルホテル Oriental Hotel
- ㉟ ホテル 六甲オリエンタルホテル Hotel Rokko Oriental
- ㉞ ホテル オリエンタルホテル舞子ヴィラ Oriental Maiko Villa
- ㉞ 観光旅館 有馬温泉(東有馬)古泉閣 Kosenkaku
- ㉞ 商社 朝日麦酒 K.K. Asahi Beer
- ㉟ 電化製品 ナショナル電化センター National Electric Center
- ㉞ 銀行 神戸銀行 Bank of Kobe
- ㉟ 喫茶・紅茶直輸入 UCC上島珈琲本社

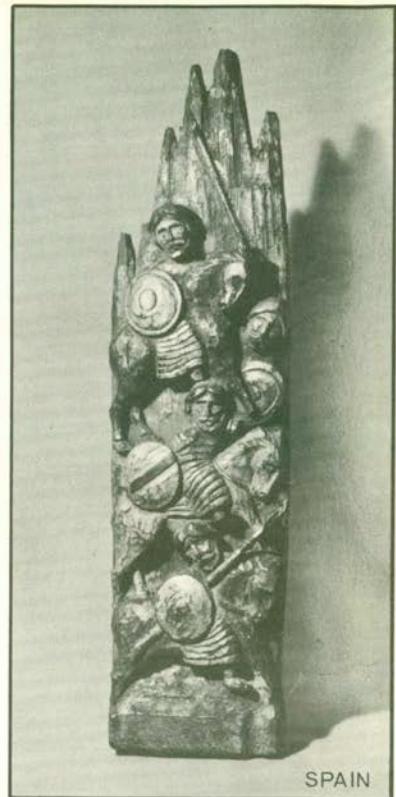
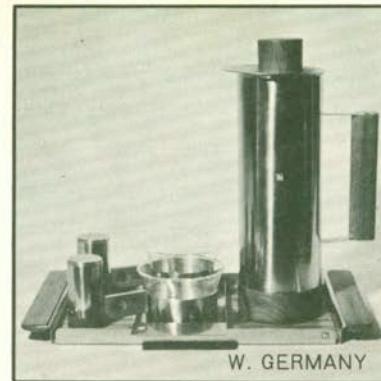


★ KOBE HIGH CLASS SHOPS GROUP

神戸百店会

→神戸のユニークな専門店でお買ものを！





THE FANCY is STICK OKADA

高級舶来雑貨とステッキの店
ステッキ オカダ
三宮生田筋 TEL (3) 1198



創立 30 周年

昭和四十年一月二十日 発行所／神戸市兵庫区御幸通八丁目九ノ一 神戸国際会館一階 TEL 227-0317 領価 100円
第三種郵便物認可 昭和四十年十月十五日発行 毎月一回 大日本印刷株式会社 製本発行／小泉康夫（送料18円）

● 全国の神戸銀行で出し入れご自由――



東宝・内藤洋子

●全店扱
普通預金

神戸銀行

★ 百店会でのお買物は神戸銀行の
ホーム・チェックをご利用ください。